

## 日本における貴石細工のルーツを伝える

わかさ 若狭めのう細工 × うえにし そういちろう 上西 宗一郎 [福井県小浜市]

古くから七宝の一つに数えられてきた<sup>きせき</sup>貴石めのう。赤く透き通るような輝きと繊細な細工が特長の若狭めのう細工は、置物や装飾品として珍重され人々を魅了してきました。熱を加えて鮮やかに発色させた原石を、その形や大きさ、模様を生かして加工した後、長く根気のいる研磨作業を続けることで、めのう細工独特の透明感と滑らかさを生み出していきます。江戸時代の享保年間(1716~1736年)に玉造りから始まった若狭めのう細工は、明治時代に中川清助が種々の工芸彫刻法を案出し、鶏や鯉など美しい彫刻品として広め、国内外で注目を集めました。全盛期には約300人が従事し、そのうち50人程度の職人が高度な技術を全国に広めていましたが、現在は上西宗一郎さんが唯一の後継者として技を伝えています。



形ができあがると、目の細かいすり砂で泥磨きを行い、さらに磨き粉で仕上げる。表面が滑らかになり、めのうの深い透明感と美しさを引き出してくれる。若狭めのう細工の重要な最終工程で、この作業だけで1カ月以上要することもある。



●鶏の置物  
縁起の良い飾り物として多く制作された。



●【F-TRAD】Kakikomi earrings  
福井の伝統工芸をアップデートするプロジェクトでは、制作工程で出る原石のかけらを美しいアクセサリに仕上げた。

【宗助工房】  
福井県小浜市西勢58-19  
TEL:0770-52-5448



大きさや色、形、キズの入り方などそれぞれの原石の個性を生かして加工していく。中央の球体は玉造り。



現在扱う原石はブラジル産が多いが、譲り受けた稀少性の高い北海道産でも制作している。

## 上西 宗一郎

1976(昭和51)年に国指定伝統的工芸品に指定された若狭めのう細工の唯一の後継者。大阪での会社勤めを経て、30代で小浜市にUターン。若狭おばまの伝統工芸を伝える体験施設「若狭工房」でインストラクターを務めたことから若狭めのう細工に出会う。職人の激減を目の当たりにするなかでその技術を継承し、職人の道に進んだ。現在は独立し、若狭めのう細工の唯一の職人として技を磨きながら「宗助工房」で制作を続けている。

紹介動画は  
こちらから



若狭工房による  
動画はこちら

